

●三位一体後第十一主日

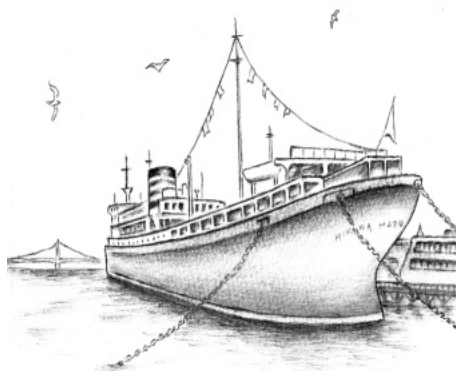
泉のほとり

今月の詩編「第百二十六編」

主よ、わたしたちのために

大きな業を成し遂げてください。

わたしたちは喜び祝うでしょう。



福音を告げ知らせながら

初代教会の誕生後、使徒たちはエルサレムで福音宣教に励み、多くの人々が主を信じ、教会に加えられました。信徒たちは日々集まり、使徒たちからキリストの教えを熱心に学び、平和な交わりを築いていました。

その中でステファノやフィリポは霊と知恵に満たされ、重要な奉仕を担っていました。しかしステファノは反発を受け、捕らえられる中、最高法院で「あなたがたは救い主を殺し、律法を守らず、神に逆らっている」と語りました。人々は激怒し、彼を石打ちにして殺したのです。

ステファノの処刑が引き金となり、初代教会への大迫害が始まりました。サウロは家々に押し入り、男女を問わず信徒たちを牢に送り、教会を徹底的に破壊しようとしていました。教会は親しい仲間や家族が捕らえられ、築き上げた交わりが奪い去られました。まるで神がおられないかのような悲惨な光景が繰り広げられる中、使徒たち以外は皆、ユダヤとサマリアの地方に散らされていたのです。

散っていた人々は福音を告げ知らせながら巡り歩きました。彼らはステファノを失い、迫害を受け、見知らぬ土地に散らされても、主の福音をしつかりと握りしめて歩んでいたのです。

当時、ユダヤ人はサマリア人を非常に嫌悪していました。サマリア人は異邦人と結婚し混血となっており、神の敵、汚れた者として軽蔑されていたのです。ユダヤ人はサマリアに近づくことさえ避けていました。しかし、フィリポはサマリアの町に下って、汚れた霊を追い出し、体の不自由な人々を癒すなど、サマリア人に対して、あらゆる奇跡を行いました。キリストを宣べ伝えていたのです。大勢のサマリア人が主イエスを受け入れ、喜びに満ち溢れたのです。エルサレムの使徒たちにこの知らせ

が届くと、ペトロとヨハネがサマリアに遣わされ、多くの町や村で福音宣教を行いました。フィリポの働きが先駆けとなり、サマリア全土に福音が宣べ伝えられたのです。

かつて主イエスは使徒たちに「エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」と言われました。フィリポはこの主の言葉を伝え聞いていたと思います。主の言葉を真つ直ぐに受け止め、主はサマリア人にも福音を届けてほしいと願っておられると御心を知り、偏見を捨て去っていたのです。

ステファノの殉教、そして大迫害が宣教の拡大につながりました。一見不幸に見える出来事を通して、主の言葉が実現したのです。指導者たちが教会を滅ぼそうとした悪しき業をも、神は用いられ、御心を成し遂げられました。フィリポや使徒たちは、神が全てを動かしておられることを見て、まるで神がおられないような出来事が起こっても、神はおられ、全てが神の御手の中にあると信じる信仰が与えられていたと思います。

主の十字架は指導者たちの悪しき企みによって引き起こされました。しかし神はその悪をもご支配されていました。主を人の罪を贖ういけにえとされ、人を生かすための大いなるみわざを成し遂げられたのです。

この世界、また身の周りで、いかなることが起こっても、神はおられます。全てが神の御手の中にあります。フィリポのように、神のご支配を見て、主の御心を中心に歩む信仰を目指していきましょう。わたしの目に思わしくない出来事が起こっても、神が何をなさろうとしておられるかを純粋に見て、福音を真つ直ぐに受け止めつつ、力強く歩んでいきたいです。

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○教会員メールでお知らせした通り、保川幹代姉が八月二十六日(火)午前八時四〇分頃お亡くなりになりました。悲しみの中にあるご遺族のためにお祈りください。

葬儀の日程につきましては、ご遺族とご相談の上、決まり次第お知らせします。

《ぶどうの会より》

す。
礼拝後、第二・三シオンルームでぶどうの会を行います。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

（司・会）の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百二十六篇】 都に上る歌。

主がシオンの捕われ人を連れ帰られると聞いて

わたしたちは夢を見ている人のようになった。

そのときには、わたしたちの口に笑いが

舌に喜びの歌が満ちるであろう。

そのときには、国々も言うであろう

「主はこの人々に、

大きな業を成し遂げられた」と。

主よ、わたしたちのために

大きな業を成し遂げてください。

わたしたちは喜び祝うでしょう。

主よ、ネゲブに川の流れを導くかのように

わたしたちの捕われ人を

連れ帰ってください。

涙と共に種を蒔く人は

喜びの歌と共に刈り入れる。

種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は

（司・会）

束ねた穂を背負い

喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「主こそが神である」

聖書 列王記上18章30～40節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「聞く耳と心を持つて生きる」

聖書 列王記下5章9～15節

説教者 宮間 彰広 兄

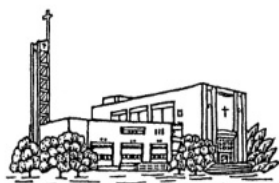
●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 74番 236番

説教 「自由をもたらす律法」

聖書 ヤコブ2章8～13節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 85番 191番
説教 「キリストの信仰を持ちなさい」
聖書 ヤコブ2章1～7節(新約 P.422)
司式 石川 一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲 「いと高きにある神にのみ栄光あれ」 J.ハッヘル

○讃美歌85番

1. 主の真理は 荒磯の岩

さかまく波にも などが動かん

(くりかえし)

※くすしきかな あまつみ神

げに尊きかな とこしえの主

2. 主のめぐみは 浜のまきご

その数いかでか 計りうべき ※

3. うつりゆく世 さだめなき身

ただ主に頼りて 安きをぞえん ※

4. つもれるつみ ふかきけがれ

ただ主を仰ぎて 救いをぞえん ※

アーメン

○讃美歌191番

1. いともとうとき 主はくだりて

血のあたひもて 民をすくい
きよき住居をつくりたてて
そのいしずえと なりたまえり

2. 四方のくにより えらばるれど

のぞみもひとつ わざもひとつ
ひとつのみかて とともに受けて
ひとりの神を おがみたのむ

3. 数多あらそい み民をさき

世人そしりて なやむれども
かみはたえざる いのりをきき
なみだにかえて 歌をたまわん

4. 世にのこる民 去りし民と

ともにまじわり 神をあおぎ
とわのやすきを 待ちのぞみて
君の来ますを せつにいのる

アーメン

聖餐曲 「聖なる者たちの喜び」 D.カド

後奏曲 「アメリカ風マーチ」 C.M.ガイトール